

令和6年度 第3回 裾野市の教育のあり方検討委員会 記録

※18時30分開会

※20時00分閉会を目処

学校教育課長	定刻となりました。本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。はじめに、開会を教育総務課長よりお願いします。
教育総務課長	ただいまから「第3回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。
学校教育課長	次に、教育長より挨拶をお願いします。
教育長	この会議の趣旨は、裾野市の未来像を話し合うことです。第2回については「自分を活かす」ということで話し合いをしていただきました。委員長の言葉を借りると、「自分を活かす」ということは地域で生きていくこと、多様性を伴って豊かな街をつくっていくこと。多様性とのつながりを考えると、大切なことであると思います。地域づくりについて、まずはどのようなことを大切にすればよいかということについて、御意見をいただきたいと思います。
学校教育課長	次に、委員長より挨拶をお願いします。
委員長	今日は2テーマなので、時間がない状況。どんどん意見を言っていたきたいと思います。いろいろな意見が出て、多様性の話になると考えます。
学校教育課長	次に、協議事項に入らせていただきます。ここからは、村山委員長に議事進行をお願いします。

委員長	それでは、議事を進めていきたいと思います。本日は、資料にあるとおり2つの事項につきまして協議を進めていきたいと思います。はじめに、「地域とともにある教育をするには、どういう環境づくりや取り組みをしていったらよいか、何を大切にしていってよいか。」について、事務局より説明をお願いします。
教育監	(教育監より説明) 再編後の学校のあり方について、資料を参考に話をしていただきたいと思います。 本日欠席の委員から、紙面で意見が提出されているので、御覧ください。
委員長	地区との関係の話で再編の話が出たが、具体的に何を議論すればよいでしょうか。
教育監	取り組み内容を知っていただいて、それに対して意見をいただきたいと思います。 (教育監より資料の説明)
委員長	このような地域の状況から、少しずつ学校再編ということで地域の在り方

	が変わっていくということを考えつつ、地域と共にある教育について御意見をいただきたいと思います。 先ほどの委員の御意見にあったように、保護者が子供のマネージャーになっていて、これを身に付けさせたいからここに行かせようとサービスを利用してやり、最終的に残った部分を学校にやってもらっているというふうになっていて、大人とすりあわせることも必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。
委員	以前富岡第二小の児童数が減ったとき、呼子という団地が造られました。その結果、当初は人数が増え、地元の人も喜んだということがありました。学校再編はメリットとデメリットがありますし、経済的に考えるといろいろな金額が出ると思います。
委員長	再編の問題については、保護者の意見としては統合してほしいということが多かったように思います。
委員	夏の祭りで、中学生が販売の手伝いをしたということがありました。また、社会科見学や工場見学をして、生産の現場を見学するということで、地域とのつながりを感じています。また、老人ホームや地域の幼児施設に行って交流をしたこともあります。 だいたい学校だが、生徒会と市が連携してということもありました。
委員長	学校が入らないと動かない部分があるのかと思います。きっかけを作るのは学校なのかなと思って、そのあと自分たちで動けるかという点と難しいのではないのでしょうか
委員	以前、祭りで子供神輿というのを出していました。大人と一緒に地域を回ったということもあったが、コロナで祭りが小さくなってしまっています。河川の清掃は学校との関係があるかもしれないが、祭りはあまり学校は関わっていないと思います。
委員長	家庭の方針によって、地域と関わろうという部分で差が出ると思います。あと、みんな自治という考え方が薄くなり、市のサービスとして受けたいという感覚が強くなってきているように感じています。それが地域の存続の危うさにつながっていると思います。
副委員長	今、子ども会自体が地域の中になくなってきています。子ども会の役員をやりたい人が少ないですね。また、保護者が出てこないと、子供たちの参加率も低い傾向があります。前にパンフレットを配ったが、飛び込み参加はあまりなかったようです。子供同士のつながりが弱くなって、自治会として子供たちが集うようなことをもう一度考えていく必要があると考えますが、なかなか集まらない状況です。スポーツなどをやっているところを優先しているそうです。地域の人たちもだんだん変わってきています。そうすると子供たちもその流れに沿ってしまうので、自治会が子供たちや青少年、老人たちが動けるようなものを作っていくことが必要だと思うが、なかなか苦戦しているようです。
委員	自分は子ども会に入っていなかったが、子ども会の役割って何だろうと考えます。サッカーとかやっている、そのコミュニティで考えていけると思います。もしかしたら、子ども会の役割が終わったという考え方もある

	のではないのでしょうか。何でも残そうとすると負担になってしまう恐れもあります。
委員	裾野はまだ残っている方だと思うが、だんだん崩れていくように思っています。その一方、新しい方でパワーがある方が出てきていて、勉強を教えたり子供食堂を始めたりしている人がいます。学校が丸抱えしていたものをできれば地域に広げていけるといいなと思います。
委員	どこか特定の組織が中心になるというのは、もうないのではないかと考えます。子供を含めた一人一人が学びの主体であり、大事なのは子供たちの主体性が発揮されるときに、やりたいことを言える状況があるかどうかです。プロセスがきれいにできていて、それを一度崩して再構築するというのはなかなか大変ではないですかという部分があるので、この自由度をどうやって担保するのかというのも必要になるのかなと思いました。一人一人が学びの主体であるというのはすごい裾野らしさになると思うので、学校だったり自治会だったりいろいろなところでサポートできるような状況を作ることが非常に大切だと思いました。
委員	地域と共にあるというのが、多様な意味を持っていると思います。今、自分が住んでいる地域は、地域と共にあるという意識が薄れてしまっているのかなと感じています。委員の資料にあった何もしない合宿についてですが、運営する大人の側の度量、何か言いたくなるのをどうするか。きっと言いたいことをあまり言わずに運営されていると思います。いろいろなところに所属しているというのは、これ自体否定するものではないと思います。例えば、サッカーを運営している人たちに対しては、地域と共にあるということはどういうことかを伝えていくアプローチが必要だと考えます。今あるものを尊重しながら、接続の問題をちゃんとつないでいくということを考えていくことが大事ではないのでしょうか。それが難しくてつないでいくことが難しいなら、やめるということを考えるべきかもしれません。結ばないまま散っていくということが多そうなので、ちょっと一歩踏み込んでいうことをやっていけるといいと思います。
委員長	新しい受け皿を作ろうというのはなかなか難しく、今あるサッカークラブのようなものを活かしていけるといいのかなと思います。
委員	特定の目的で集まっているということが主眼になるとよくなくて、なぜ人が集まれるのかということを考えていくことが大切だと思います。保護者も、自分の子供が上手になったり、良い成績をあげられたりということでお金を払っていると思います。地域住民の役割の果たし方はいろいろあると思っていて、直接運営するだけでなく、接続を伝えていく役割も同時に果たしていくことも主体者として大切だと考えています。
委員	今時代が大きく変化していて、子ども会、老人会、婦人会もそうでした。ただ、もしかしたらなくなって困る人よりもよかったと考える人がいるのではないのでしょうか。子供が喜んでついていくようなコミュニティを作らないといけないのかもしれないかもしれません。
委員長	地縁の集団と特定の目的で集まっている集団があって、今特定の目的の方が強くなっている傾向があります。これからは、それを地縁の集団と結び付けていくという考え方がよいのかもしれないかもしれません。

	多様性についてはどうですか。
委員	昔は大人数のクラスでいろいろな子がいたように思います。今は、いろいろなクラスができて、大騒ぎすることなくうまくいっているように感じています。多様性は難しいなと思います。能力を優先すると、バランスがとれない。その一方で、思い切ったことをやっている学校もある。先生方も本当は一緒にやりたいと思っけていても、できなくなっているのかなと感じます。
委員長	子供たちのニーズに合わせてやろうとすると、どんどん小さく分かれていき、どうしても分離してしまうということがあります。その塩梅がわからなくなっていて、個別にニーズがあるからと分けているところがあって、昨年度の委員会でもいろいろな情報提供をいただきました。個別のニーズに応えつつ、分離しない方法を考えていかないと、多様性の話にならないと思います。
委員	多様性に満ちた教育というのは、そこでいろいろな人が関わって初めて満ちた状態になると考えます。コミュニケーションや関わりをどう生み出すのかが大事で、意図的に生み出すには環境づくりが大切なのかなと感じています。もちろん方法を充実させていくことはよいが、それを使わないまま終わってしまうのはよくないと思います。実際にやってみないと、多様性に満ちた教育にならないのではないのでしょうか。
委員長	いかにして多様な人となつながつていくかが大切ですが、どのように対話を起こしていくことが重要だと思います。
委員	つなぎ手がどれだけいるかが大切だと考えます。身体障碍の方の話を聞く機会が多いが、学校側からするとそういう人がいるという意味で説明する量が少なくて済むということもあると思います。見た目は変わらない場合だと、細かく説明して初めて、そういう人があるとわかる。今の対話的で深い学びをめざすうえで、そういう人たちの存在をどうやって説明するかが大事です。つないでいく人が大切で、これは地域の話でも同じかもしれないと考えました。
委員	もともといろいろな人がいたというのは、大切な視点だと思います。養護学校が分離し、特別支援学級が分離していくという流れでどんどん分けられていき、同じ教室の中で多様性が担保されていない状況が生まれています。どうやって学びを担保していくか。1979年の段階では、発達保障を第一に考えていました。現在共生共学を改めて担保しなければいけないということが話の中で強くなってきています。アメリカでは、障害の社会モデルという視点を取り入れています。障壁をみんなで取り払っていつて、ともに学ぶということを担保することが大切だと思います。
委員長	先進的なところがあると、見に行ってもらおうとよいと思います。
委員	こういう話を教員や地域と共有できると変わっていくと思います。
委員	地域住民が公教育の主体者として知っておくことが大切です。学校の先生方が知っておくみたいな感じになると、結局学校に任せるという話になってしまいます。

委員	UNIVA で協定を結んでいる 3 都市、埼玉県戸田市、東京都狛江市、大阪府箕面市を結んで取組をやっています。3 月に参集とオンラインで成果発表会を行う予定です。そういう場に参加してもらったと思います。話を聞いて頭では何となく分かっているような気がするんですけど、具体的にどんなことが実現できるのかということについてはやはりなかなか出てこないと思うので、いろいろなところを見てもらって進んでいってもらった方がよいと思います。
委員長	具体的にどんなことができるのか、いろいろと見てもらって考えていくというのはよいと思います。
委員	話を聞いてもらって、では裾野として何をするかという次の一手を構えておいて、ここの議論と接続しながら考えて、踏み込んで考えていくところまで考えておくことが大切だと考えます。学校や地域の中で何ができるのかということを考えていくとすごくいいと思います。
委員長	自分がやっている人間として動ける人がいるのかが大事です。多様性の具体的なものがないと、話が進まないかもしれません。例えば拠点校をつくって、自分事として考えていく仕組みをつくってはどうか。
副委員長	学校の教育力、地域の教育力をどう押さえるかだと思います。地域と学校の共同性というのが、自分の中にはまだ入ってこないです。
委員長	裾野の教育を学校単位で考えてしまうと、何でも学校でとなってしまうので、また違う話になってしまいます。いろいろな経験をする場所が地域にあるとよくて、それを学校でとなるとなかなか先生方も対応できないかなと思います。あまり学校にこだわらず、いろいろなことを考えていく。多様な集団が好きなことをやって活動している街というのは強いと思います。
副委員長	地域にある団体などの洗い出しが必要です。そこから子供たちが選択して、というのがあったといいですね。
委員長	向いていないとなったらすぐにやめられる環境というのも大切だと思います。
副委員長	子供たちの興味関心というか、こういう体験をしてみたいというのに対して、その土壌を作っていくことが大切ですね。
委員	ここはぶれてはいけないということを、煮詰めてもいいのかなと思います。ここに立ち戻れるということを決められるとよいと思います。そして、やってみてダメだったら乗り換えられるようにするのがいいですね。
委員長	プランを立てて動かしながら考えていくことも、大切ではないでしょうか。
副委員長	ゆるい PDCA にしていくと、負担にならないと思います。
委員	子供と関わってみたい、教えてみたいという人はいるが、どうやって立ち

	上げていくかというところがなかなかできていないように思います。一回開けるというものができると、いろいろな可能性が生まれるのではないのでしょうか。
委員長	希望する人がずっといると頼みやすいが、そうでないと頼みにくいという部分もあるかもしれません。
委員	いろいろな体験ができるということを生徒自身が知る機会があると、やってみたいとなると思います。
委員	若い方はどうやって情報を収集していますか。
委員	ネットは見るが、かたいサイトだと見ないです。インスタなどは見るので、そういったところに情報があると、見て知ると思います。
委員	例えば、公園の中に学校があるといいなと思います。子供たちが学校の中にいるから、外のことが見られないということがあるのではないのでしょうか。公園で誰かが活動している様子を見られると、生徒も知ることができてコミュニケーションも生まれると思います。セキュリティもあるから難しいと思うが、子供が学校にいるときに学校の中や周りにいろいろな人がいると、いいと思っています。
委員長	学校の中に市の施設があるという例があります。
副委員長	以前、空き教室に老人が集まって活動するという話がありました。そこに子供たちが行って遊びを教わるなどしていました。今はないのかもしれませんが。
委員長	それでは、予定されておりました議事はすべて終了しました。皆様のご協力により議事をスムーズに進めることができました。進行を学校教育課長にお返しします。
学校教育課長	ありがとうございました。それでは、次に 「その他」 となります。何かございますか。
教育監	1点、前回の委員会議事録の確認と市ホームページへの議事録の公開についてご意見を伺いたいと思います。 事前に委員の皆さまには、前回の議事録（要点筆記）を送付させていただきました。ご一読いただき、何か修正する点や変更点はございませんか。なければ、前回の委員会議事録を確認いただいたということで、こちらで保管をさせていただきます。
学校教育課長	他に何かございますか。なければ、閉会に移らせていただきます。閉会の挨拶を、教育総務課長お願いします。
教育総務課長	次回の日程につきましては、11月27日（水）となりますので、よろしくをお願いします。 これで「第3回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。お疲れ様でした。